

図書

音楽と共に生きる

音楽教育学科音楽教育専攻 平成24年度卒業 管真実子

この本に出会うまで、私にとってルネ・フレミングは雲の上の存在だった。その演奏はCDやDVDでしか聴いたことがなかったが、どれも素晴らしいものばかりで、きつと生まれたときから才能に溢れていて、私とは音楽を始めた土台が全然違うのだろうと思っていた。この自伝を見つけたときは、きつと輝かしい栄光の数々が述べられているものに違いはないと思いついで手に取った。ところが、私の予想は読み進めていくごとにどんどん打ち砕かれていったのである。オーディションに何度も落ちたこと。あがり症になり、セラピストの元へ通ったこと。何度も歌ってきた曲が突然歌えなくなってしまうたこと。さらに学生生活が終わった職業音楽家として活動を始めた後も、音楽業界のビジネスの難しさや、自分の身体をいかにコントロールして舞台にたつていくかなど、そこにはルネ・フレミングが歌い手人生でぶつかったきた数々の壁について述べられていた。だが、この本の素晴らしい点は、それらの壁をどのように乗り越えてきたかが事細かに述べられていることである。著者は目の前にある課題について決して途中で投げ出すことなく、その解決方法を考え続けた。たとえそれが何年かかろうとも。

本書の中に以下のような一節がある。「私が書き上げたのは、私の人生の物語ではなく、私の声の自伝だ。(中略)これは、私がいかにして自分の声を発見したか、いかにして声を磨き上げたか、そしてそれがいかに私自身をも磨くことになったかという物語である。」

私はこの本を読み終えて、ルネ・フレミングという歌い手の存在がグツと近くなったように感じた。私が普段、自分の演奏について悩み、考え、自分なんてダメなのだろうと思いつながらも、音楽を学び続けているということ。この道のりはまだまだ長く、終わりは見えないけれど、こうして音楽に関して考えたことの全てが、自分の声を、そして私という人間を削り上げていくのだと思つたら、なんだかとてもワクワク

楽譜

作曲家・信長貴富

合唱を通して考える

「言葉がつくり出す音楽」

演奏学科弦管打楽器専修(クラリネット)4年

金田翼

合唱といえば、声楽の方ももちろん、多くの人になじみがあるジャンルだと思います。私も中学の合唱団に入つて以来、今もOBOGで集まって活動を続けています。

最近、合唱を通じて自分の楽器の演奏への向き合い方を改めて考えるようになりました。

合唱は文字通り声を合わせるアンサンブルですが、そこから生まれる歌詞やハーモニーの美しさの素晴らしさには楽器の演奏はなかなか敵

して、勇気が湧いてきた。

音楽と共に生きる人生には沢山の厳しさが待ち受けている。しかし、音楽を探求し続けることは、人生を素晴らしく、豊かで輝いたものにしてくれるのだということを教えてくれる一冊である。



請求記号●J107-588
「魂の声」ルネ・フレミング著
中村ひろ子訳 春秋社

●かんまみこ 四年間お世話になった図書館に、もう今までのように毎日借られなくなるなんて…これからどうしたらよいでしょう(泣)

いません。楽器と向き合う時にも、歌い方や息遣いなど合唱から得られるものはたくさんあるのではないかと思つています。

今回ご紹介するのは、そんな合唱の素晴らしさを感じられる作品「寺山修司の詩による6つのうた 思い出すために」です。

作詩は詩人・劇作家・演出家の寺山修司、作曲は今合唱界で人気の作曲家、信長貴富です。(代表曲:「新しい歌」「初心のうた」など)

この曲集は題名にもある通り6つの曲より構成されています。

1. かなしみ…肯定と否定を繰り返す詩。「かなしみ」という言葉は詩の中には出てこないが、曲想や終始続くビートは孤独への恐れを描いているように感じられる。

2. てがみ…もとの詩は七五調で書かれている。

前曲と一転して、どこにもたどり着かず彷徨うような曲想である。

3. 世界のいちばん遠い土地へ：題名のように壮大さを感じられる曲。「いちばん遠い土地」とは何を指すのだろうか？

4. ぼくが死んでも：ゆつたりとした美しい音楽に乗せて歌われる大切な人へのメッセージがとて心響く曲。

5. 思い出すために：洒落た雰囲気のワルツ。もどかしい心境を表した歌である。

6. 種子：読み手(歌い手)に問いかける内容がとてストリートに刺さる詩。最後に向かつて昇華していくハーモニーが美しい終曲である。

この様に全く曲想も異なる6つの曲からは共通して人間の中にある「孤独」と「愛情」が感じられます。そして、一つの詩から信長氏が作り出

楽譜

あなたも気軽に異文化体験

音楽教育学科音楽教育専攻 3年 坂田修一

「あなたは、普段ハンガリー語を耳にする機会がありますか？」と聞かれたとき、大抵の人は無いと答えるだろう。ハンガリー語には母音が14もあり、世界の言語の中でも難しいものの例として取り上げられたりする程だ。なぜハンガリー語かというと、今回紹介する楽譜はハンガリー語で歌うハンガリーの合唱曲集シリーズ

す大きな世界観と、ハーモニーや曲想の素晴らしさを感じ取ることができると思います。

詩を読み込むこと、またその詩につけられた曲を歌うことは、とても奥が深いと思います。西洋の音楽に傾倒しがちですが、日本の合唱曲に触れ、日本語の詩を味わいながら、合唱のハーモニーに浸ってみませんか？



請求番号●F27-229他
「寺山修司の詩による6つのうた」他がある
思い出すために(混声)版
女声、男声、高声、低声版
寺山修司 作詞 信長貴富 作曲
カワイ出版

●かねたっばさ 自分の筆跡は判別しやすいたいといわれて当惑することがあります。筆跡は皆違ふといわれますが、筆跡はその人の性格が表れている気がして面白いなと思います。

だからだ。

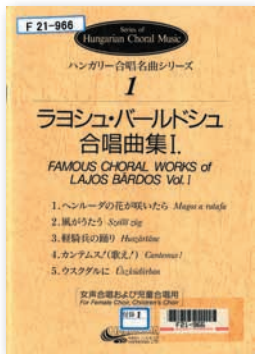
現代ハンガリーで合唱作品を書いた作曲家としては、コダーイやバルトーク、コチャールなども有名だが、この曲集のバルドシュも忘れてはならない作曲家の一人である。バルドシュの合唱作品は、録音の数にこそ恵まれないが、主にハンガリーの地方の民謡を題材にした様々な曲を残している。

例えば、町で軽騎兵隊員を募集する場面が目に見え、浮かぶ軽快な勧誘の歌、東欧の厳しい冬を吹き荒ぶ吹雪のような音の重なりで表現する歌、ドナウ川を飛び越える若者を語った歯切れのよい民謡と恋人への思いをロマンチックに歌い上げる民謡とが融合して、二面性をもった仕上がりとなった歌：いずれも特有のリズムやパ

ドシユ的な和音遣いでハンガリーの雰囲気を存分に感じさせてくれる作品ばかりである。

また、この曲集で最も嬉しいところは、巻末に歌詞の日本語訳、逐語訳、それだけでなく普段慣れ親しむ機会の少ないハンガリー語の発音のしかたが非常に詳細に記載されている点にある。シリーズ物として何冊か出版されているが、全ての巻末にハンガリー語の発音指南がついてくることで、ハンガリー語は慣れない言語だぞ敬遠しないで、歌ってみて。と、私達と楽曲との心の距離をぐつと縮めてくれているようにも感じる。

たとえ完璧に言葉がわからなくても、進んで体験したり聴き親しんだりすることで得られるものは数多くあると私は考える。その言語が持つ特有の音色を楽しみ、その国や作曲家特有の豊かなハーモニーと独特の躍動感溢れるリズムを体感すること。それは貴重な音楽体験になるとともに、異文化を知りその良さを味わうことに繋がるだろう。私はそういつた幅広い音楽の体験が、音楽による情操教育や国際性の伸長に有効だと思う。様々な音楽体験の機会を提供する音楽教育を展開していきたい。



請求記号●F21-966
ラヨシユ・バルドシュ合唱曲集 1
(ハンガリー合唱名曲シリーズ1)
ハルモニア

●さかたしゅういち 芯のある音色で二度をぶつけたアカペラのハーモニーは本当に綺麗！人間の声だからこそ生まれる美しさを是非この曲集で体験して！